

めでたく満100歳

安田 文子さん(市海道)
菅野 政さん(安達ヶ原)
國分 作一さん(館野)

この世に生を受けて一世紀。12月10日に安田文子さん(市海道)、12月20日に菅野政さん(安達ヶ原)、12月25日に國分作一さん(館野)がめでたく満100歳を迎えられ、二本松市からは賀寿、福島県からは賀寿と木杯が贈られました。皆さんのますますのご長寿をお祈りいたします。



安田さん

ご長寿の秘訣は？

「ストレスをためないよう、気
を楽にして生活する」こと。



菅野さん

ご長寿の秘訣は？

「果物など何でも美味しく食べ
る」「体を動かす」こと。



國分さん

ご長寿の秘訣は？

「よく寝て、畑仕事などまめに
動く」こと。

豊作豊漁を願って

威勢よく新春初せり



新春恒例の初せりが1月5日、市公設地方卸売市場で開催されました。早朝の厳しい寒さの中、青果店や水産物店の店主ら約40人が集まり、今年1年の繁盛と、より一層の景気回復を祈り手締めが行われました。その後、和歌山県産のみかんや愛媛県産の真鯛がご祝儀相場で競り落とされ、新しい年の初めを景気よく祝いました。



リリーバース隊員がマスクケースを作成

ストップ! なりすまし詐欺



地域安全ヤングボランティア「リリーバース」隊員が、なりすまし詐欺被害防止の啓発のため、マスクケースを作成し、12月10日、市役所を訪れその完成を報告しました。

マスクケースには、「高齢者を狙う詐欺を減らしたい。電話はもちろん、銀行員等になりすまし、カードを奪う手口もあるので、気を付けて欲しい。」との願いが込められています。



左から、そえたわかな添田若来さん(二本松一中)、まつまことね松山琴音さん(安達高)、三保市長

姉妹そろっての快挙!

愛鳥週間ポスターコンクール入賞



令和2年度福島県愛鳥週間ポスターコンクールにおいて、最高賞の知事賞を受賞したもんまみゆき門馬幸さん(旭小6年)、次席の教育長賞を受賞したうみやま門馬文佳さん(旭小3年)の姉妹が、12月25日に市役所を訪れ、その受賞を報告しました。幸さんの作品は、全国を対象とした令和3年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールにおいても入選しました。



左から、石澤旭小学校校長、門馬文佳さん、三保市長、門馬幸さん、丹野教育長

栄えある「**県の名工**」に二本松市から2人が選出

ものづくりで県内最高水準の技を持つ^{たくみ}匠をたたえる、令和2年度の県技能者表彰受賞者『**県の名工**』12人が発表され、二本松市からは、菅野^{かんのみつお}光雄さん(大工、木幡)と山岡^{やまおかまさと}正人さん(木製家具・建具製造工、東町)が選ばれました。

やらないで失敗するより…

菅野光雄さん(71)は、中学校を卒業後、地元の建設会社に入社。その会社で10数年腕を磨き、「やらないで失敗するより、やって失敗した方がよい」との思いで、当時の親方の後押しもあり、平成元年に独立。現在は、K・H建工株式会社で代表取締役を務めています。

阪神・淡路大震災

独立して数年が経った平成7年、阪神・淡路大震災が発生。菅野さんは、大工仲間とともに自費で兵庫県に出向き、木造の建物の調査を行いました。震災後、「木造は弱い」と一部で話がでましたが、菅野さんらは、大学と連携をしてさまざまなデータを収集し、「一概に木造が弱いことは無い」という事をデータによって証明。福島県からの後押しを受け、「木造住宅耐震マニュアル」を完成させました。

新潟中越地震においても仮設住宅建設のボランティアに携わり、また、東日本大震災においても安達太良匠の会の副会長として、復興公営住宅の建設を進めました。

職人として当たり前の事を

阪神・淡路大震災を目の当たりにし、当時は、それほど優先順位が高いわけではなかった「耐震性」を追求。手間が掛かっても、「災害に遭わない安全安心な家づくり」を忠実に行ってきました。

「我々の仕事は、お客様から供給してもらうから出来る仕事。家を建てるのは一生に一度。人の財産を動かすものだから、その人の期待に応えられるようにしたい。感謝しながら技術を磨き、その技術を精いっぱい出すのが職人だと思います。」と話してくれました。



1_県の名工 菅野光雄さん
2_木材の墨付け
3_菅野さんが手掛けた内装



「組子」に魅せられて

山岡正人さん(74)は市内長命で建具の製造等を行う「株式会社たてぐ屋山岡」の代表取締役社長。幼い頃から、先代である父・六郎氏らの仕事を見ながら育ちました。

高度な技術が求められる「組子」^{くみこ}加工は、その習得までに長い期間が必要とされ、特に手間の掛かる技術とされます。山岡さんは、独自に開発した治具(専用の機械)と組子加工機との組み合わせによって機械化を推進し、生産性を向上させました。

その組子加工の中でも山岡さんが得意とするのが、「三ツ組手」加工です。3本の木が組み合わさることで出来る組子で、その精巧な加工技術は各方面から称賛を受けています。



「家具の街」二本松

平成14年からは、市内の家具、建具の事業者が共同で運営している二本松木工家具協同組合で理事(令和元年5月からは専務理事)を勤め、他の組合員とともに「二本松家具まつり」の開催を主導するなど、木工製品の普及、啓発に尽力しています。



技術の伝承へ

山岡さんは、後身の育成や女性の活躍推進に積極的に取り組み、また、これまでの長い経験によって培われた技術を惜しみなく若い職人たちに伝承することで、伝統を未来へとつないでいます。

1_県の名工 山岡正人さん
2_将来を担う人材の育成にも力を入れています
3_「三ツ組手」が浮かぶ柔らかな灯り